

全国いじめ問題子供サミットに参加して
中津市立豊田小学校 徳重 文香

私は、全国いじめ問題子供サミットに参加できて、とてもうれしかったです。なぜなら、とても良い経験が出来たからです。

平成30年1月20日当日。豊田小学校の代表、そして、大分県の代表として、「絶対にがんばる」という思いを胸に、東京へ向かいました。とても緊張しました。でも、学校を出発した時に、学校みんなが温かい見送りをしてくれたので、緊張がほぐれました。

本番では、みんな気合いが入っていました。ほとんどの人が中学生だったので私たち小学生は「不利なんじゃないかな」と思ったけど、友達から「相手が中学生でも私たちは負けてないよ」と言われて、がんばろうと思いました。

ポスターセッションでは、一回目の発表では、なかなか上手に発表することができませんでした。声もなかなか出ず、堂々と発表できませんでした。そして何より、大幅にタイムロスしてしまいました。二回目では、一回目よりも良い発表をしようと思いました。発表では、堂々と発表することができ、タイムロスがありませんでした。ですが、質問の時に、まちがった答え方をしてしまいました。先生から、「次から、またがんばろう」と言われましたが、とてもすぐには、気持ちがきりかわれませんでした。でも、三回目は最後です。最後の三回目なので、みんな真剣な顔をしていました。だから私も、三回目は一回目よりも二回目よりも上手くやろうと思いました。三回目は、最高に上手にできました。堂々と言葉をかまわずに言え、質問の答え方もよくできたと思います。

他の学校の発表では、すごくいじめが減るようなとり組みがたくさんありました。豊田小でもとり入れたいなと思いました。グループ協議では、知らない人と話し合うので、ポスターセッションよりももっと、緊張しました。私は司会になりました。初めて会う人なので、意見が出ずに苦労しました。おどろいたのがアンケートの意見です。私のグループでは、「無記名」や「『いじめ』という言葉を使わない」という意見が多かったからです。

全体交流では、中学生が意見をたくさん言っていて圧倒されました。でも小学生も負けていないくらい発表できたと思います。豊田小の名前がよく出てきて、先生から「これだけ豊田小学校の名前が出てくるのは、スゴイ」と言われてうれしかったです。

私はこの全国いじめ問題子供サミットを通して三つのことを学びました。一つ目は、いじめをなくすために、みんなで話し合い、考えていくことが大切ということです。二つ目はみんながいじめがどれだけ悪いことかを知ることが大切ということです。三つめは友達の大切さを改めて分かりました。この経験を日常に生かしていきたいです。また、いじめサミットに行かせてくれた、親、指導してくれた、先生方。そして、最後まで私を支えてくれた仲間達。ありがとうございました。

全国いじめ問題子供サミットに参加して
中津市立豊田小学校 三重野 七虹

平成30年1月20日、私たちは、大分県の代表として、全国いじめ問題子供サミットに参加しました。いじめサミットに参加し、すばらしい経験をすることができました。参加できたことをとてもうれしく思います。

前日の、1月19日、たくさんの豊田小学校の仲間に見送られ、東京に向けて出発しました。全国大会だと思つととても緊張しましたが、みんなの応援を思い出すと、とても心強い気持ちになりました。そして、本番も胸を張って堂々と発表しようという気持ちになりました。

そして、いよいよ本番。東京都霞ヶ関の文部科学省で、全国いじめ問題子供サミットが開かれました。そこには、全国各地からたくさんの代表校が集まっていました。みんな代表というだけあって、すごい発表をしそうな雰囲気がただよっていました。でも、私たちも劣っていないはずです。発表の三つの柱である「①自分たちで考えて実行してふり返ることが大切」「②授業の中にこそいじめを防ぐ鍵がある」「③心を成長させる言葉を集めるために行動することが大切」を、ますますしっかり発表しようという気持ちになりました。

ポスターセッションは全部で三回。一回目は、緊張してあまり声が出ず、発表自体もあまり上手くいきませんでした。しかし、あれほどたくさん練習をしたのです。大分県の代表に選ばれず悔しい思いをした人達が、応援して見送ってくれた仲間達がいるのです。こんな発表をくり返すわけにはいきません。日々の練習を思い返し発表をしました。先生から、二回目、三回目とどんどん良くなり、三回目は完璧だったと言われました。他県の人もたくさん集まってくれました。今までの練習の成果を、私たちの実力を、しっかり発揮できたので、とてもうれしかったです。

次は、私たちが他校の発表を聞く番です。私が特に印象に残っているのは、愛媛県の真穴中学校と、福島県の郷ヶ丘小学校です。真穴中学校は、愛のみかん運動という取組を発表していました。本当に愛が感じられて良い活動だと思いました。また、質問にも臨機応変に答えてくれて、発表の仕方でもたくさん学ばせてもらいました。郷ヶ丘小学校は、最後のまとめで感動させられました。放射能などでの福島県民いじめについて「私たちは福島の間人です。それに誇りを持っています」とまっすぐな意見に心をうたれました。

グループ協議では、初対面で最初は話が盛り上がりませんでした。前にいる中学生たちは、初対面のはずなのに、まるで友達のように笑いながら話していたのですごいなと思いました。前日からたくさんの意見を考えていたため、発言はたくさんできましたが、防犯カメラやくつばこのことについて話があまり盛り上がりませんでしたので少し残念でした。

全体交流には文部科学大臣と高橋みなみさんがいらっしやっていました。そして報道陣もたくさんいました。そんな中、挙手をして二回も発言できたことは今後の自信につながると思います。ここでも中学生にはとても感心させられました。次々と意見を出し、反論したり、相手の意見を修正しようとしたりしていました。自信に満ちあふれた声で

自分の意見を強く主張していました。後ろにいた引率の先生が「すばらしい」とつぶやく声も聞こえました。内容はもちろん、意見の伝え方や言葉の構成にもたくさん驚かされました。私もあんな中学生になりたいです。

今回いじめサミットでたくさんのことを学ぶことができました。加害者にも被害者にも第三者にもできることがあり、そのみんなが意見を交流することが大切だということもわかりました。これからは、いじめサミットで学んだことを生かして、よりよい未来にできるよう努力したいと思います。すばらしい経験を有り難うございました。

全国いじめ問題子供サミットに参加して
中津市立豊田小学校 平山 雄太

全国いじめ問題子供サミットに参加できたことにぼくは本当にうれしいと思います。いじめサミットで学んだことは、将来に絶対役立つと思いました。

平成30年1月20日に大分の代表として文部科学省に行きました。すると周りにはたくさんの方がいてすごく緊張していましたが、ぼくはすごくそれ以上に、うれしい気持ちでいっぱいでした。学校を出発するとき、先生と仲間が盛大な見送りをしてくれました。みんなの応援ですごく心強かったです。代表として、豊田小の取り組みを伝えようと思いました。

東京霞ヶ関の文部科学省。そこには全国の北海道から沖縄までの様々な代表校が集まっていました。すごい発表をしそうな雰囲気です。しかし、自分たちも負けられない。発表の三つの柱である「①自分たちで考えて実行」「②授業の中にこそいじめを防ぐ鍵がある」「③心を成長させる言葉を集めるために行動する」をしっかりと伝えようと思いました。

ポスターセッションは全部で三回。一回目は緊張して、声が大きく出ませんでした。しかし、大分県代表として、はじをかいてはいけないと思い二回目、三回目どンドンどンドン発表が良くなって先生からは、良くなったすごいという声をもらいました。たくさんのお他県の方がぼくたちの、発表を聞いてくれました。

他校の発表も聞きました。特に、愛ひめの真穴中学校の、地域での活動などをこれから地域の人とかかわりが深くなる発表だと思いました。

グループ協議では、当日までにみんなで話し合っただけでメモしていた意見を積極的に発言しました。しかし、初めて会うメンバーでの話し合いなので困ったりする時もありました。前のグループの中学生は、みんな知りあいのようでした。ぼくはなぜこんなに笑ったりして話し合っているんだろうと疑問になりました。中学生の話し合いはあたりまえのようにできるところがすごかった。特に話し合いで心に残ったのは、いじめのアンケートです。みんなアンケートに「いじめ」という言葉を使わない方が、気軽に相談できる工夫だと思いました。そして、アンケートの題名をいじめアンケートではなく、学校生活アンケートにしました。いじめの対応としては、先生達へは、「もっといじめの対応のことだとわからないようにしてほしい」という意見が多くでました。司会に立候補したものの、司会には選ばれませんでした。司会に立候補したのもいい勉強です。

全体交流では、文部科学大臣や高橋みなみさんが来ていました。全員が集まった会場には報道の方もいました。そんな中、挙手して発言できたことはすごい自信になると思います。この全体交流でも中学生のすごさを知りました。いろいろな意見が出していました。意見の内容はもちろん、話し合いの技にも驚きました。自分もあのような中学生になりたいと思いました。

今回いじめサミットに行って、多くのことを学びました。いじめを少しでもなくすためには、今回の取り組みを学校に取り入れるべきだと思いました。いじめについて、多くの人の意見を交流することが大切だと思います。いじめサミットのこと、忘れてはいけないと思いました。ありがとういじめサミット。

全国いじめ問題子供サミットに参加して
中津市立豊田小学校 久恒 さら

平成30年1月20日、私は大分県の代表として、全国いじめ問題子供サミットに参加しました。私は、いじめサミットに参加して、たくさんのことを学びました。

いじめサミット前日の19日に多くの生徒に見送られ、東京へ向かいました。すごく緊張していましたが、豊田小6年、そして大分県の代表として、堂々としなくてはと思い、当日のいじめサミットにいどみました。豊田小のステキな取り組みをしっかりと理解してもらおうという気持ちで。

当日、同じ代表のみんなで文部科学省に行きました。そこには全国各地の代表の人がたくさんきていました。代表の人たちのしっかりしてそうな、雰囲気を感じ緊張が走りました。ですが、今まで練習してきたのだから一生懸命がんばろうと思いました。私たちの主張は三つあり、一つ目が「自分たちで考えて実行して振り返ることが大切」二つ目が「授業の中にこそいじめを防ぐ鍵がある」三つ目が「心を成長させる言葉を集めるために行動することが大切」です。この三つをしっかりと伝えようと思いました。

ポスターセッションは全部で三回ありました。AグループとBグループにわかれ、Aグループが発表しているときは、Bグループが発表を聞いて、Bグループが発表しているときは、Aグループが発表を聞くというやり方でした。私たちはAグループだったので、はじめは、発表をする側でした。一回目は緊張し、声も大きく出せず、うまくいきませんでした。しかし、応援してくれた仲間や先生、全国大会にいけなかった大分県の学校の人たちのことを思い出し、どんどんがんばろうという気持ちがわいてきました。そして、二回目、三回目にいどみました。三回目では、たくさんの人たちが私たちの発表をきいてくれていて、うれしかったです。他校の発表もすばらしかったです。

午後からはグループ協議がありました。ふだん、他の学校の人たちとグループになって話し合いをする機会がなかったので、すごくドキドキしていましたが、司会になって、話し合いを進めることができました。どこの学校もすばらしい意見をたくさんもっていて、驚きました。しかし、私も負けじと考えてきた意見を積極的に発言し、みんなの意見をまとめることができました。

次は全体交流でした。グループの子がみんなで出し合った意見をまとめて発表してくれました。ですが、あまりにも中学生の発表のしかたがうますぎて、話し合いについていくのがすごく難しく感じました。とくに反対意見を言う中学生に堂々としててかっこいいなと驚かされました。みんなが全体交流で発表した意見をメモにまとめてみると、紙に入らないくらいの数の意見がでていました。私はみんなで力を合わせて一つのことについて考えると、こんなたくさんの意見がでるんだなと感動しました。

私は今回いじめサミットに参加して、二つの大切なことに気づきました。一つ目は「同じチームのみんなと協力することの大切さ」です。私、一人が大分県の代表として、いじめサミットに参加しても、あんなにいい発表はできなかったと思います。だから、今回大成功におわったのは、チームのみんなと協力して、ポスターセッションを一生懸命がんばったからです。チームのみんなに感謝します。二つ目は「みんなでいじめのことについて一生懸命考えることの大切さ」です。いじめを解決するということも大切です

が、何より、いじめをなくすためにみんなで考えることが一番だと思います。これからもいじめがない世の中になるためにたくさん考えて、自分で行動していこうと思います。今回、いじめ問題子供サミットに参加できてとてもうれしく思っています。

全国いじめ問題子供サミットに参加して
中津市立豊田小学校 梶谷 彩菜

全国いじめ問題子供サミットに参加できたことを私はとても光栄だと思います。いじめサミットで体験、学んだことは私のきおくに一生残る貴重な体験だったと思います。

平成30年1月20日、私達は文部科学省へ行きました。緊張する気持ちもあるけれど豊田小学校の代表、大分県の代表としてがんばらないとという気持ちの方が大きかったです。

文部科学省に着くと中学生の人達がたくさんいました。小学生の人もいたけど、すごそうな発表をしそうだったので私もがんばらないとという気持ちになりました。

ポスターセッションは全部で三回あります。一回目は緊張してあまり声が出せませんでした。朝休み、昼休み毎日練習しました。行く時には同級生、他の学年、先生達が盛大にお見送り・応援してくれました。だから二回目は、大きな声を出してがんばりました。一回目よりも見る人がたくさん来てくれました。三回目はテレビカメラもきました。先生からは「一回目よりも二回目、三回目の方が声も大きくなりとてもよくなった」と先生にほめられてうれしかったです。三回目の質問コーナーでは、一回目よりも質問してくれる人が増えて、たくさんの方が聞いてくれました。

他県の発表も聞きました。私は特に愛媛県の中学校の発表がすごいと思いました。特に「わくわく集会」「愛のみかん運動」がすごくよかったです。わくわく集会は、近くの小学校と一緒に遊ぶ活動です。愛のみかん運動は、地域の人達とみかんを収穫する活動です。地域の人、小学生と交流することで、「地域愛」が生まれるから、地域のためにいじめをしなくなるそうです。愛媛県の中学生は、発表している間ずっと笑顔で、「また聞きたい」と思いました。グループ協議は、当日までにたくさんの意見を用意しました。しかし、初対面の人だから意見が出なくてだれもしゃべっていないことが何度かありました。けれど周りの中学生はテンションが高くてみんな笑顔でした。私もグループで意見を出しました。とくに盛り上がったのは、「いじめを訴えやすいアンケート」の所です。私が考えていなかった意見も出ました。特に私がいいと思った質問が「いじめを止める勇気はありますか？」です。この質問をもうすでにしている学校もありました。けれど「はい」に丸をしている人は少なかったそうです。防犯カメラの話題も出しましたが、あまり盛り上がりませんでした。

全体交流では、発表者になりました。番号の紙を挙げてもなかなかあたらなかったのが不安になりました。いよいよ私があてられた時は少し緊張しました。なぜなら文部科学大臣、高橋みなみさん、たくさんの方が私に注目していたからです。私は人見知りで大人の前で話すのが苦手なのですが、人見知りの性格が少しだけこくふくできたと思います。

今回、全国いじめ問題子供サミットに参加して、たくさんを学びました。いじめを無くすには、今回のようにいじめについて話し合うことが大事だと思います。いじめサミットに参加していた中学生は意見をしっかりとと言えるかっこいい人ばかりでした。私もあのような中学生に早くなりたいです。